

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年2月27日

予報期間：3月1日～3月28日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

東・西日本では、期間のはじめは気温がかなり高くなる所がある見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。

北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

# 全般1か月予報

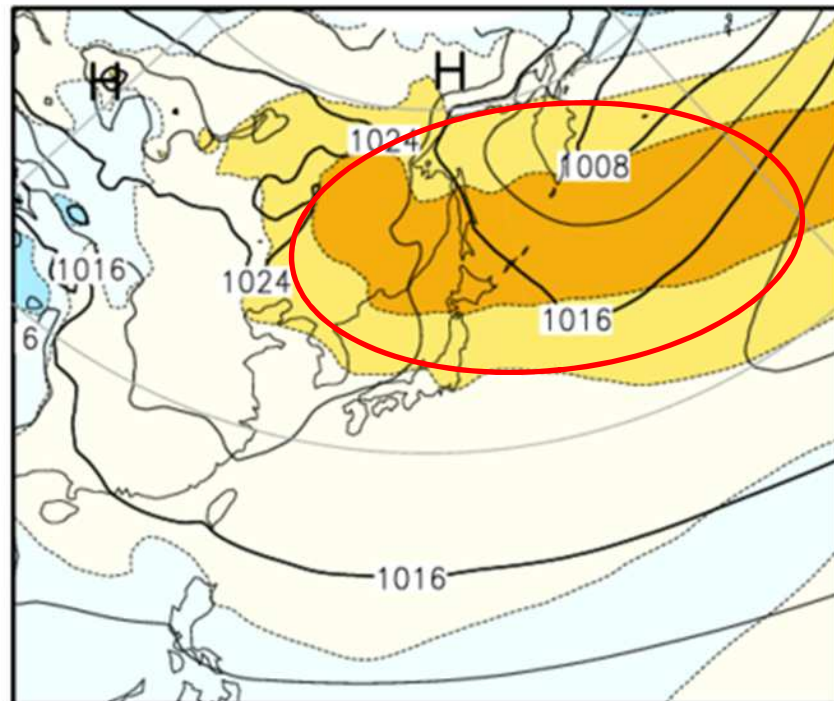
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	20:30:50	40:30:30	20:40:40	50:30:20
	太平洋側		30:40:30	40:30:30	
東日本	日本海側	20:30:50	40:30:30	30:30:40	50:30:20
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
西日本	日本海側	20:40:40	40:30:30	30:40:30	
	太平洋側		40:30:30	30:40:30	
沖縄・奄美		30:50:20	40:40:20	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:50:30	20:50:30	10:40:50
東日本	10:20:70	30:50:20	20:40:40
西日本	10:20:70	20:50:30	30:40:30
沖縄・奄美	10:40:50	20:50:30	40:40:20

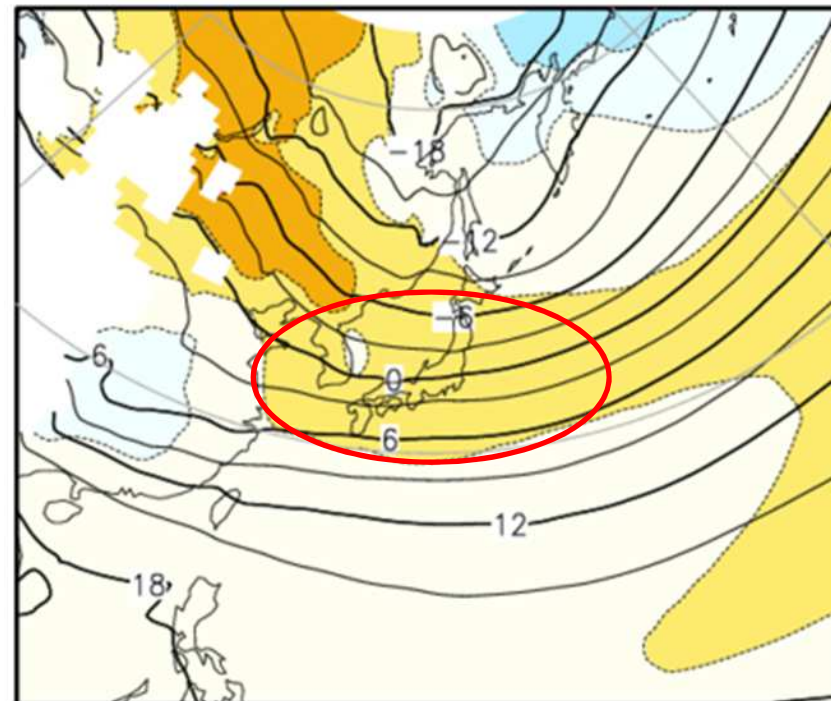
## 全般予報のポイント

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は北・東日本で高く、西日本で平年並か高いでしょう。特に、東・西日本では、期間のはじめは気温がかなり高くなる所がある見込みです。また、北・東日本日本海側の向こう1か月の降雪量は少ないでしょう。
- ・北日本日本海側では高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。
- ・東日本太平洋側では低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。
- ・沖縄・奄美では低気圧や前線の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう。

## 海面気圧(1か月)



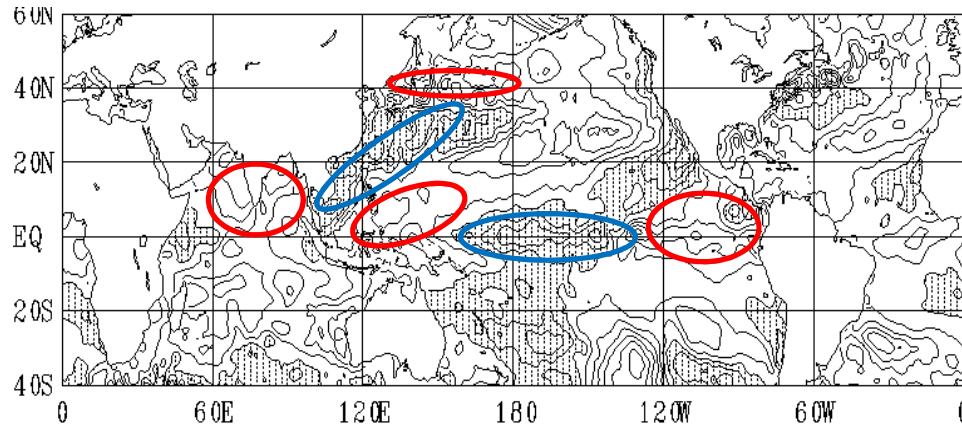
## 上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、中国東北区から日本のはるか東にかけて平年より高く、西高東低の気圧配置は長続きしないでしょう。北日本日本海側を中心に高気圧に覆われやすい時期がある一方、東日本太平洋側を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。

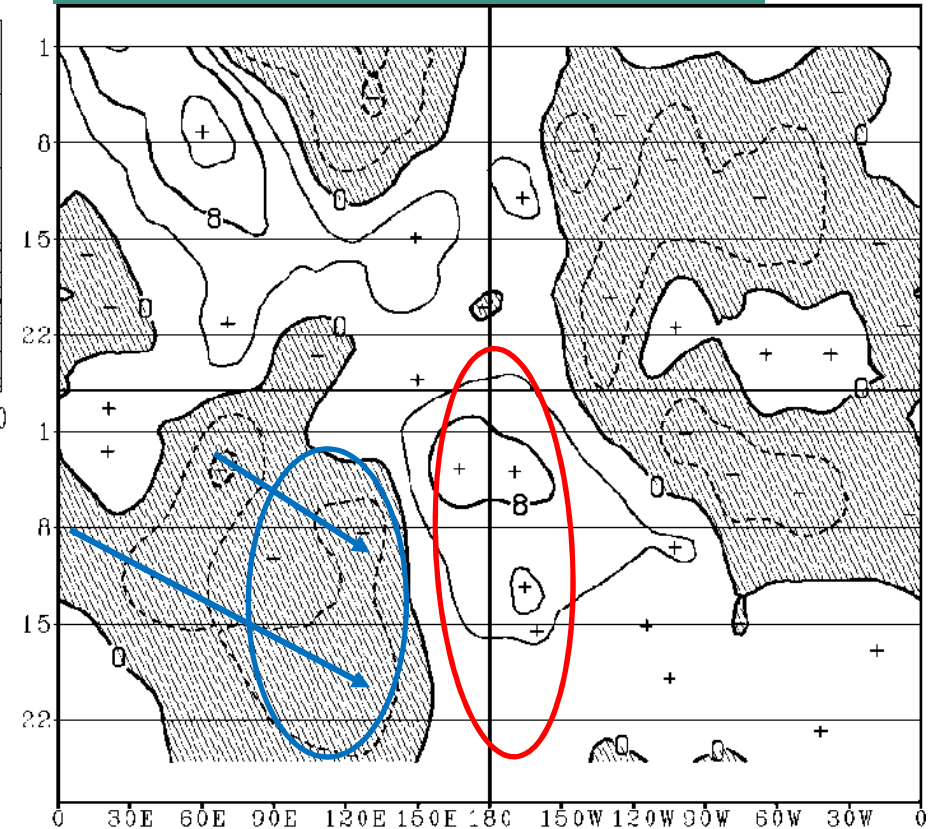
上空約1500mの気温(右図)は、北・東・西日本では平年より高く、暖かい空気に覆われやすい時期があるでしょう。

## SST偏差



熱帯域では、インド洋と太平洋西部・東部で正偏差、太平洋中部と南シナ海で負偏差。日本付近では、日本海北部から日本の東にかけて正偏差、日本の南で負偏差。

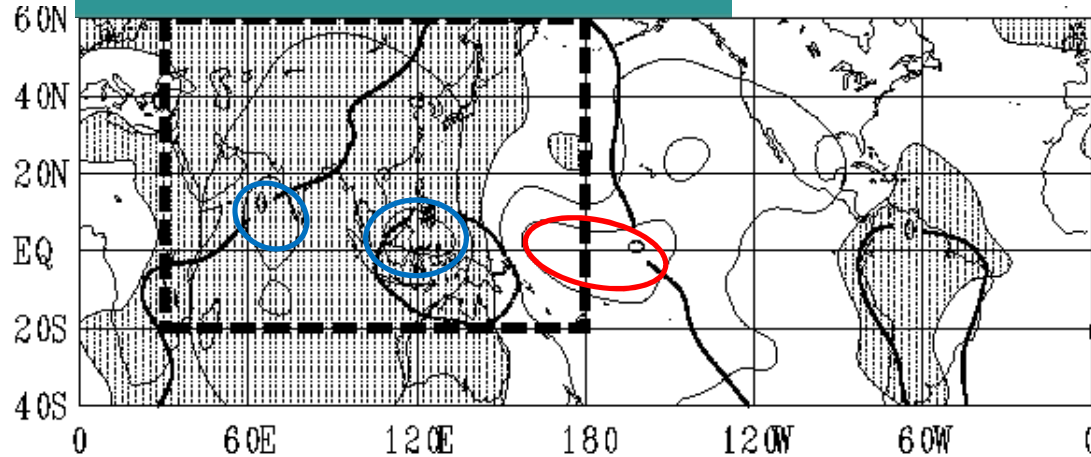
## 200hPa速度ポテンシャル偏差



インドネシア付近では2週目と3週目にMJOが東進し、対流活発となる。日付変更線付近では期間を通して対流不活発の状態が続く。

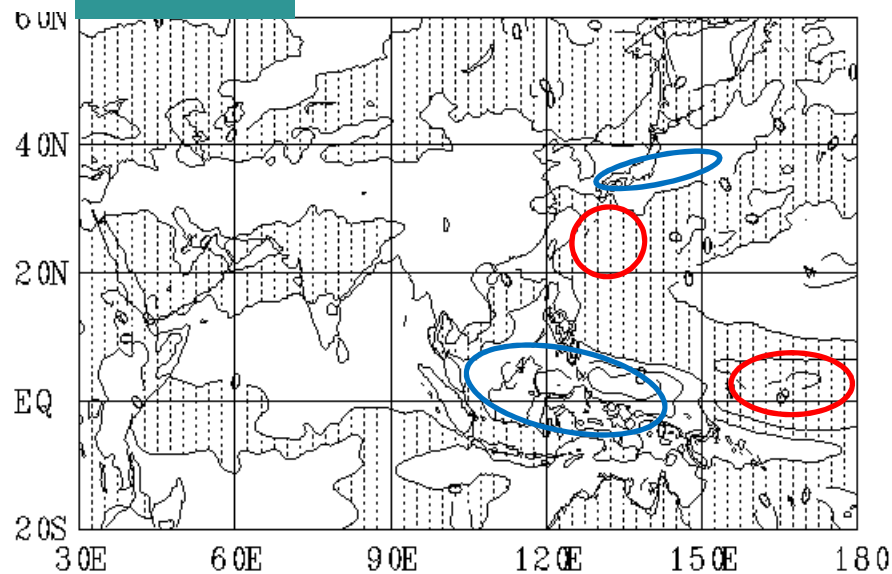


## 200hPa速度ポテンシャル



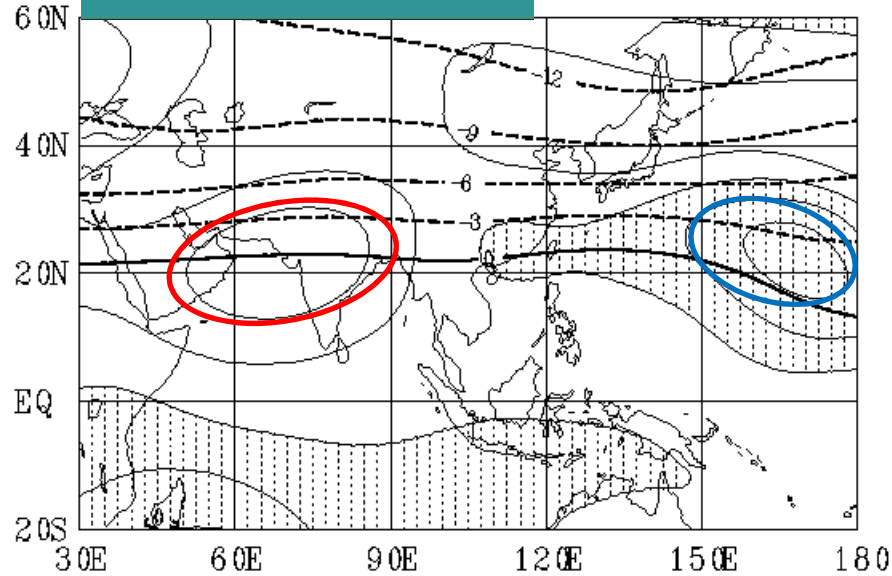
熱帯のSSTに起因する対流活動に対応して、アラビア海とインドネシアからフィリピン付近を中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

## 降水量



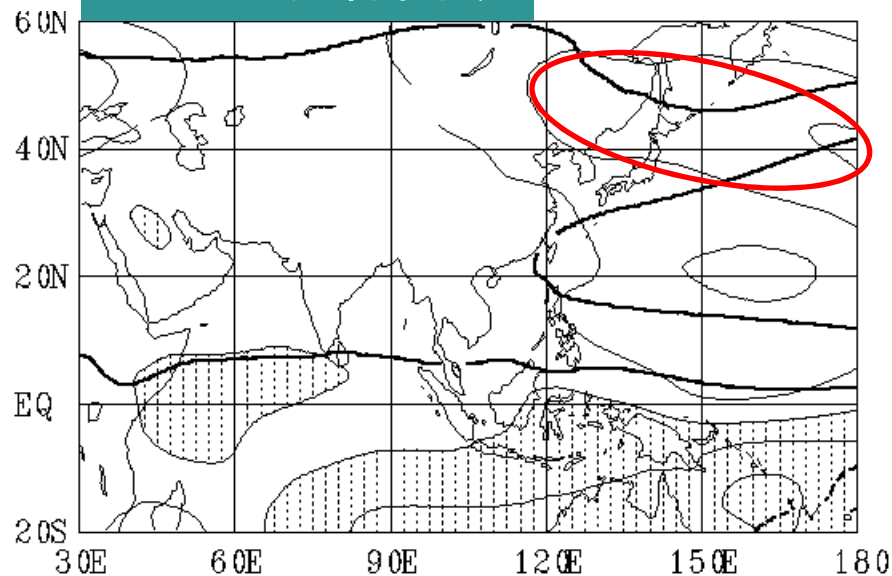
インドネシアからフィリピン付近にかけて多雨偏差の一方、日付変更線の西で少雨偏差。日本付近は東日本太平洋側で多雨偏差、日本の南で少雨偏差。

## 200hPa流線関数



アラビア半島からインド付近にかけてを中心に高気圧性循環偏差。日本の南東で低気圧性循環偏差。

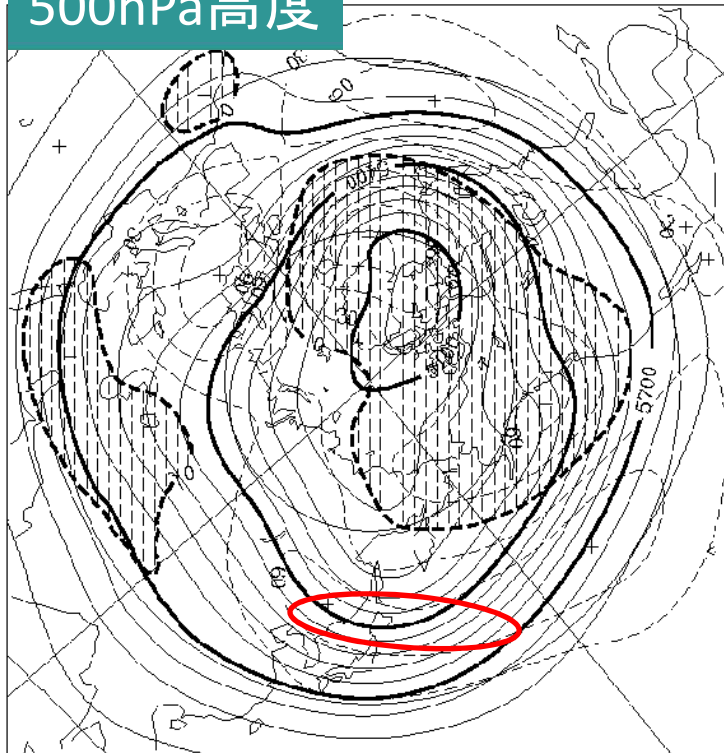
## 850hPa流線関数



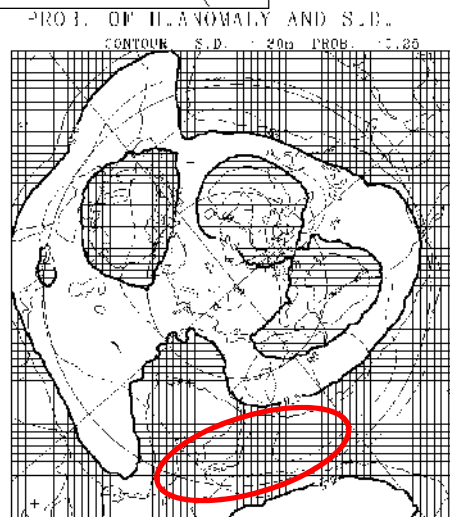
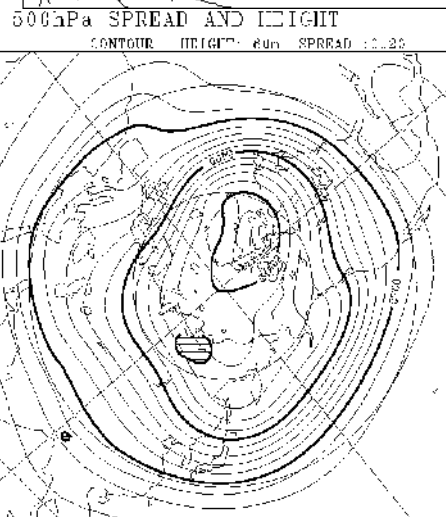
中国東北区から日本のはるか東にかけてを中心に高気圧性循環偏差。



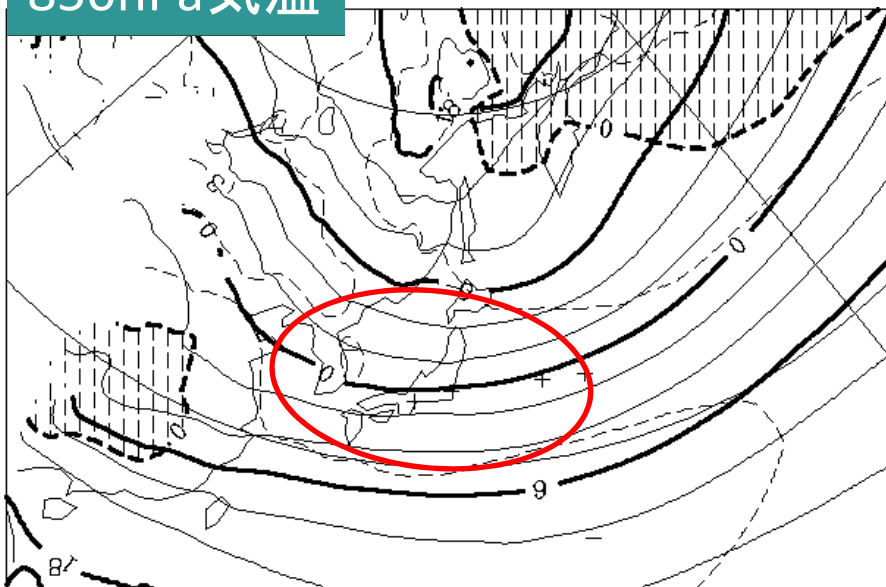
## 500hPa高度



中国東北区から日本のはるか東にかけてを中心に正偏差で、日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

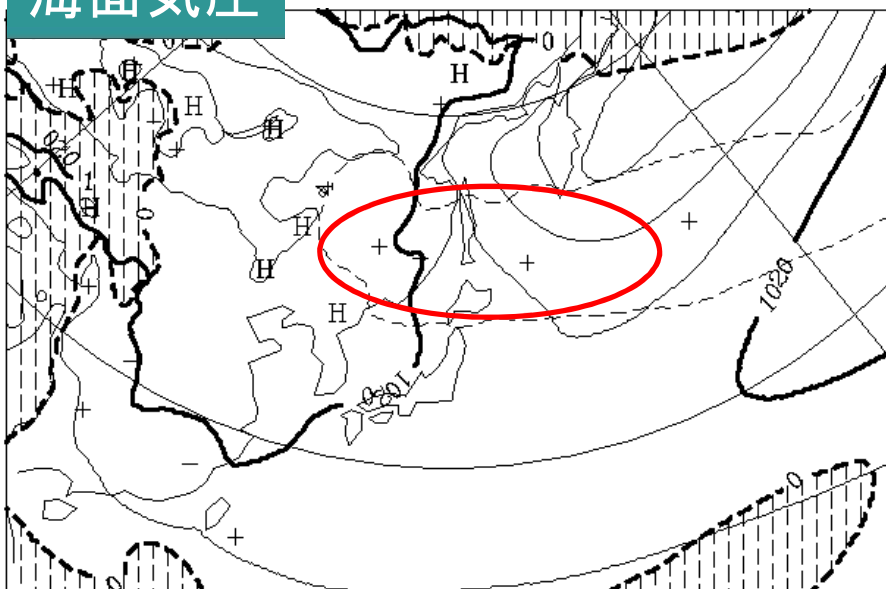


## 850hPa気温



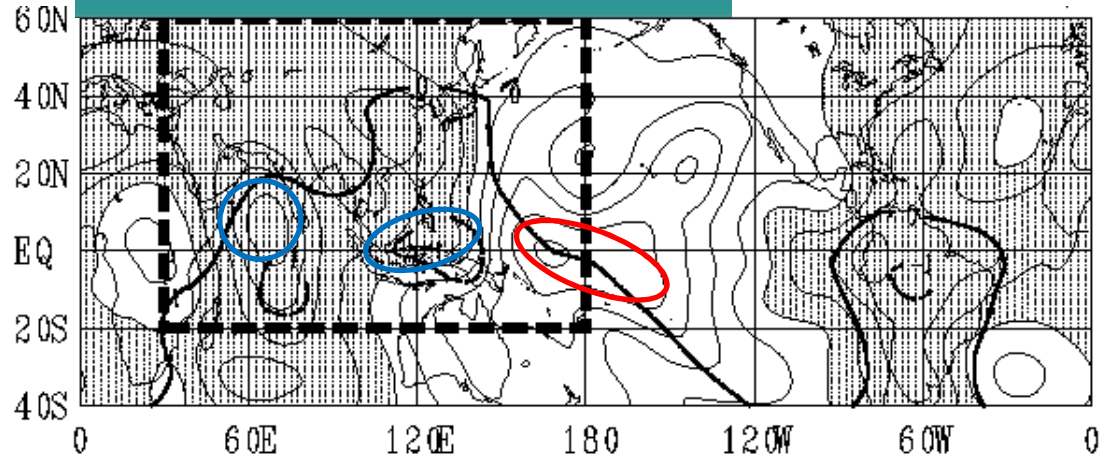
北・東・西日本は正偏差で、暖かい空気に覆われやすい時期がある。

## 海面気圧



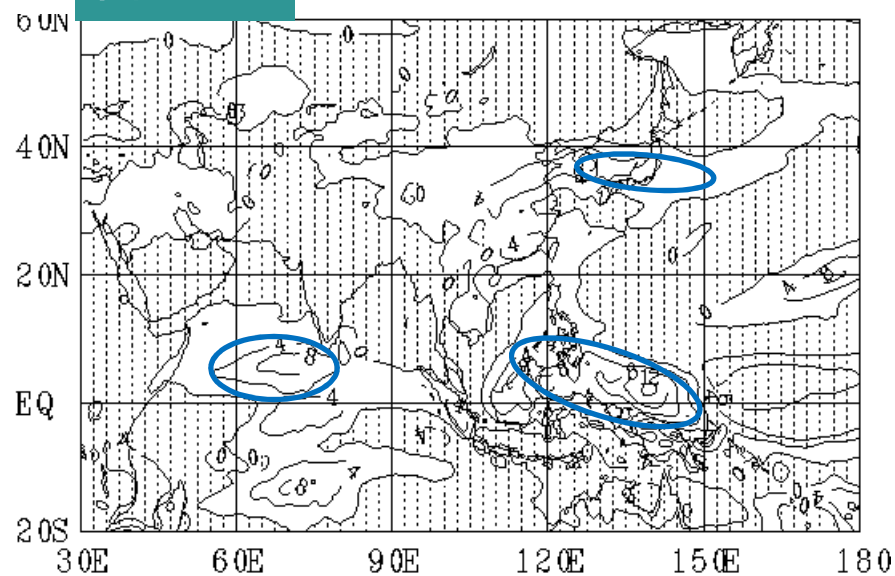
中国東北区から日本のはるか東にかけて正偏差で、西高東低の気圧配置は長続きしない。北日本日本海側を中心に高気圧に覆われやすい時期がある一方、東日本太平洋側を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。

## 200hPa速度ポテンシャル



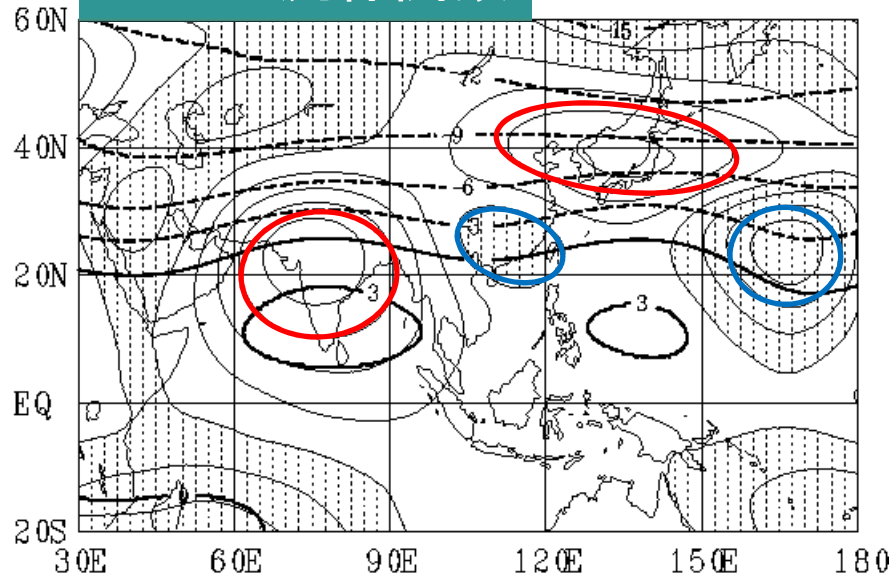
アラビア海とインドネシア付近を中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

## 降水量



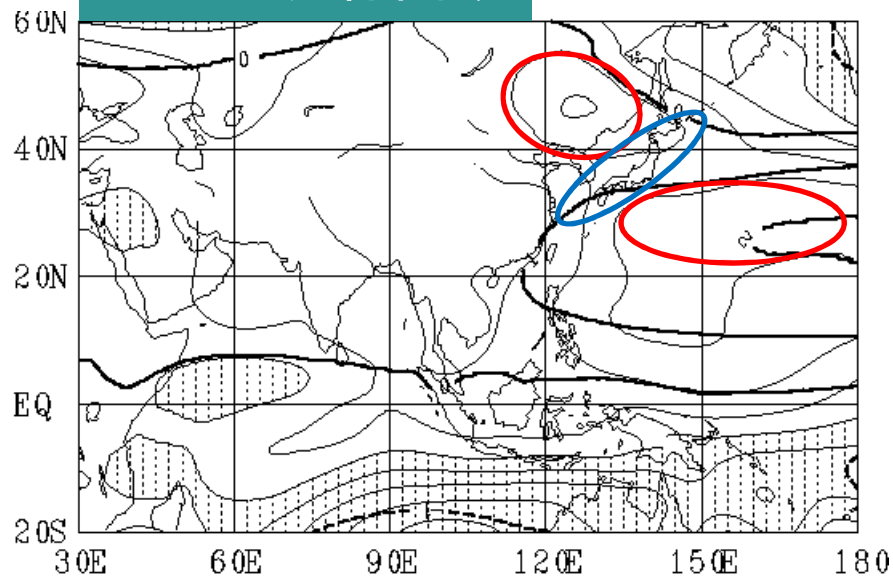
インド洋とインドネシアからフィリピン付近にかけて多雨偏差。日本付近は本州付近で多雨偏差で、低気圧や前線の影響を受けやすい。

## 200hPa流線関数



インド付近を中心に高気圧性循環偏差。この偏差の形成には、熱帯の対流活動が寄与。華南と日本の南東で低気圧性循環偏差、日本付近で高気圧性循環偏差で、亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播が明瞭。

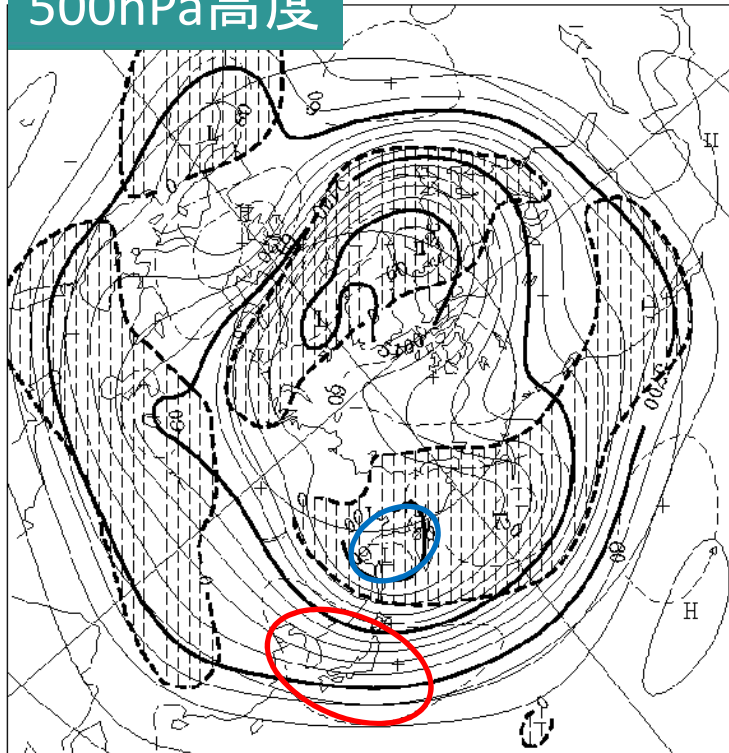
## 850hPa流線関数



中国東北区と日本の南東で高気圧性循環偏差で、日本付近は相対的な低気圧性循環偏差。

# 予報資料の解釈 1週目(3/1~3/7)

## 500hPa高度

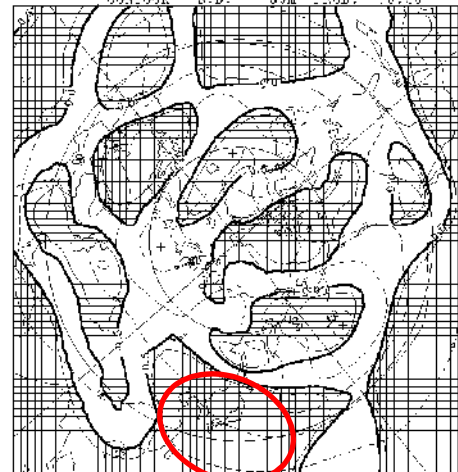
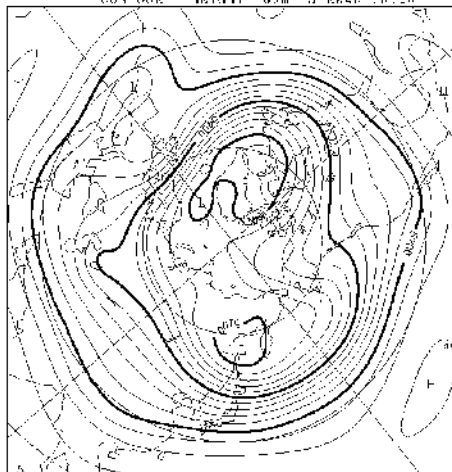


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

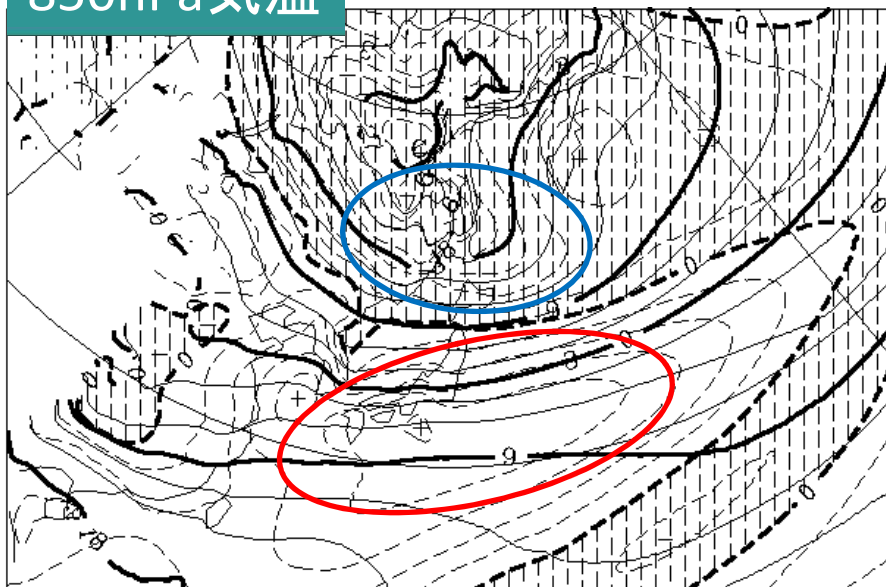
CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



日本付近は正偏差で、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。オホーツク海には寒冷渦があり、北日本は寒冷渦の影響を受ける時期がある。

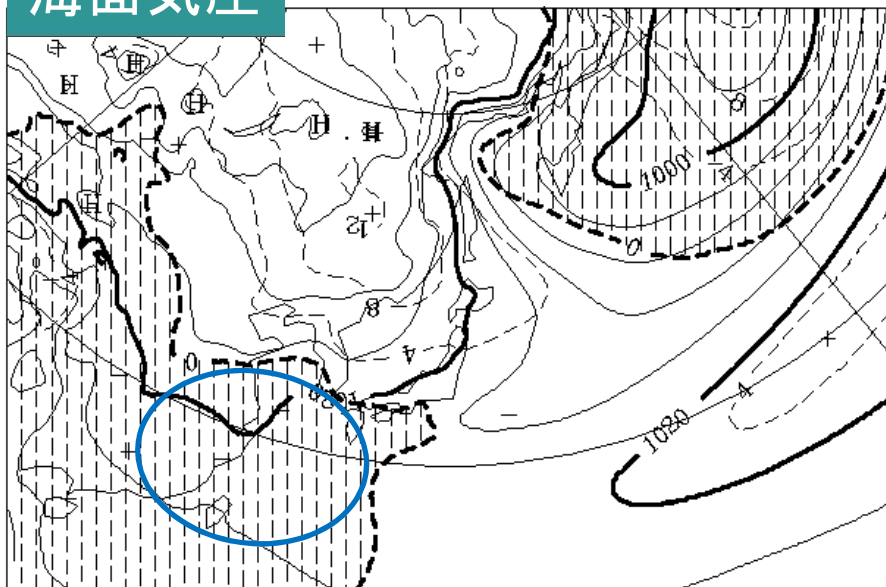


## 850hPa気温



本州付近は強い正偏差に覆われる一方、北海道には負偏差がかかり、寒気の影響を受ける時期がある。

## 海面気圧



華中から東シナ海にかけて負偏差で、本州以南は低気圧や前線の影響を受けやすい。



## 想定される天候

- ・北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・北日本太平洋側では、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
- ・東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

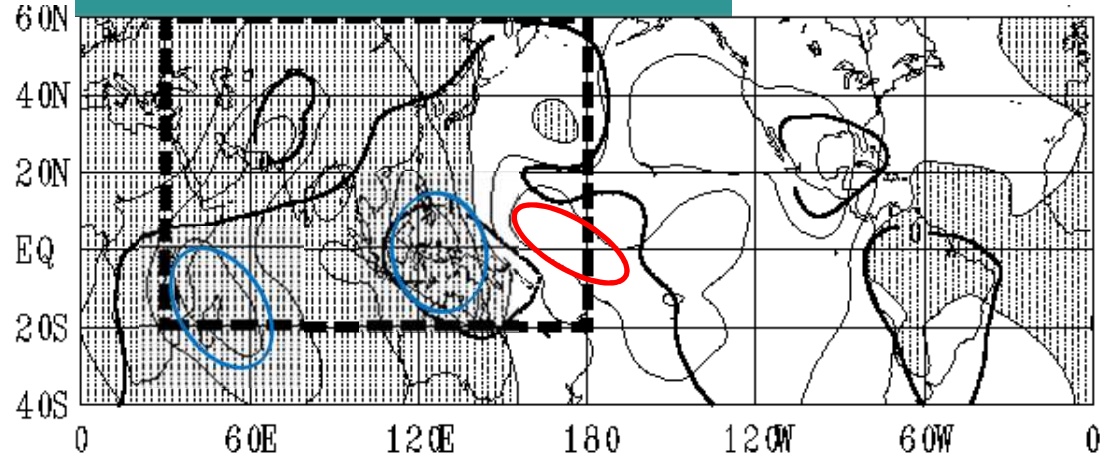
### <気温>

- ・東・西日本と沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすいため高温で、東・西日本ではかなりの高温となる所がある見込み。北日本は寒気の影響を受ける時期もあるため並温。

### <天候>

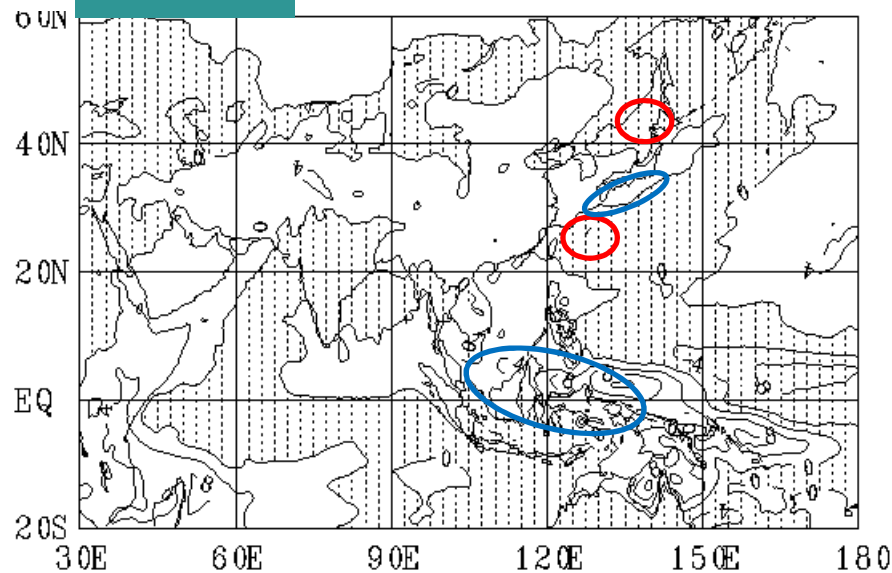
- ・北日本日本海側では、西高東低の気圧配置は長続きしないが、低気圧や前線の影響を受けやすい。

## 200hPa速度ポテンシャル



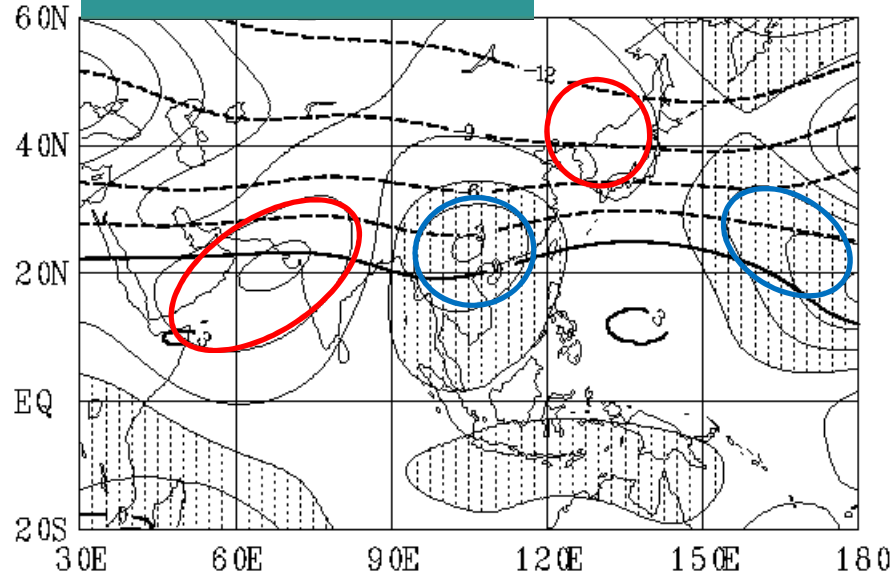
インド洋西部とインドネシアからフィリピン付近にかけてを中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

## 降水量



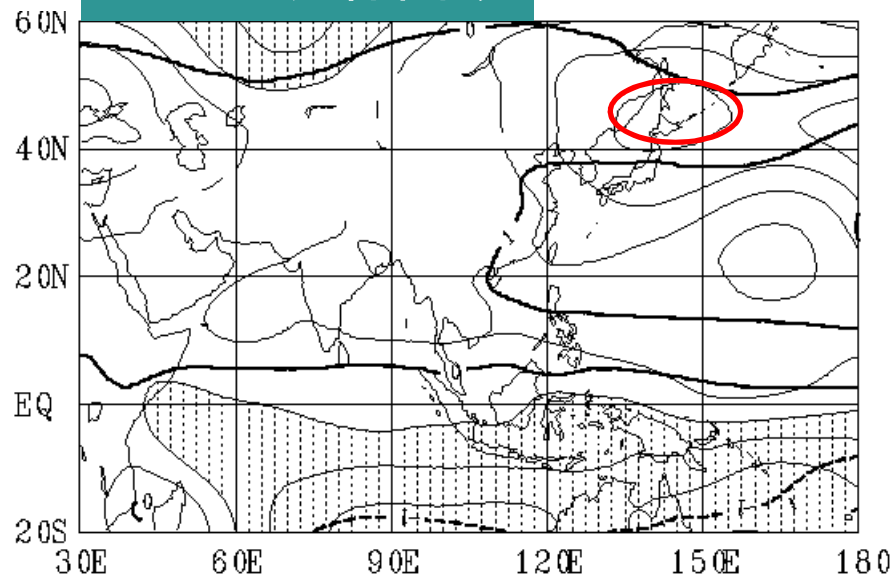
インドネシアからフィリピン付近にかけて多雨偏差。日本付近は東・西日本太平洋側でやや多雨偏差、北日本日本海側と沖縄・奄美でやや少雨偏差。

## 200hPa流線関数



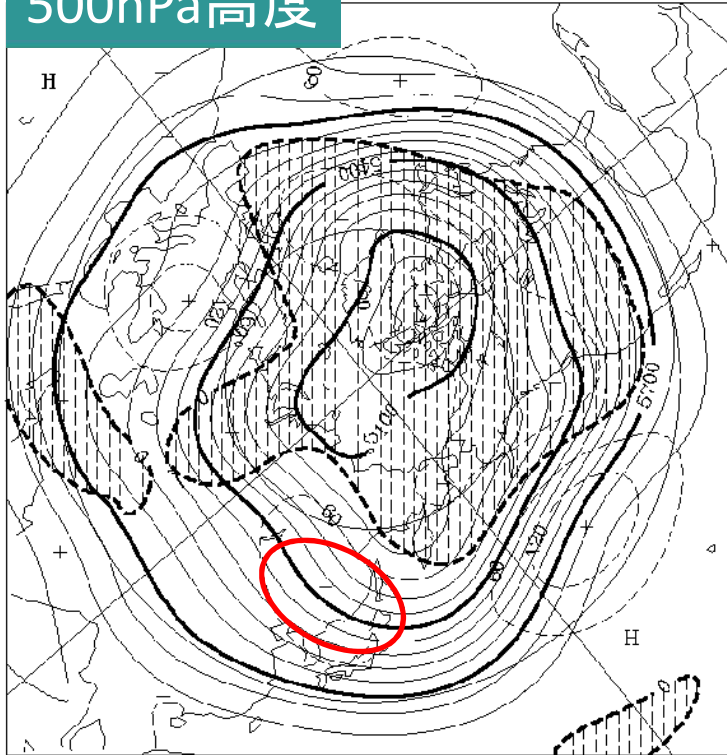
アラビア半島からインド北部にかけてと日本付近で高気圧性循環偏差、華南付近と日本の南東で低気圧性循環偏差で、亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播が明瞭。

## 850hPa流線関数



北日本を中心に高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

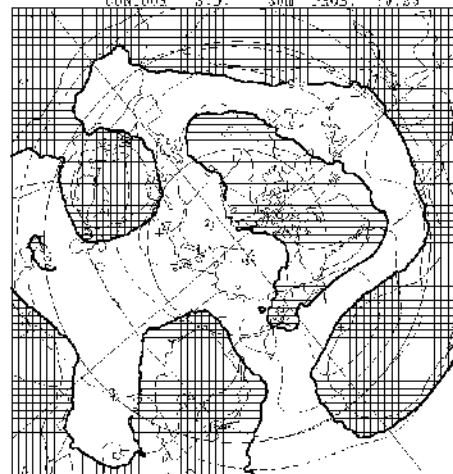
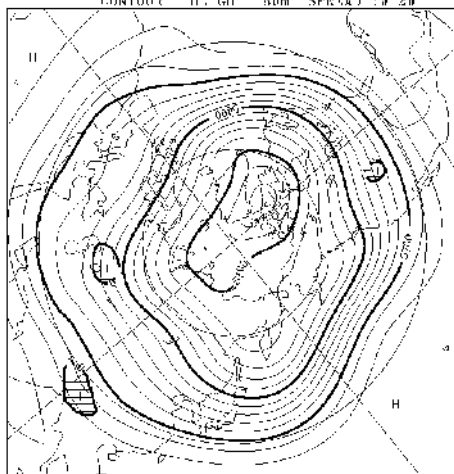
## 500hPa高度



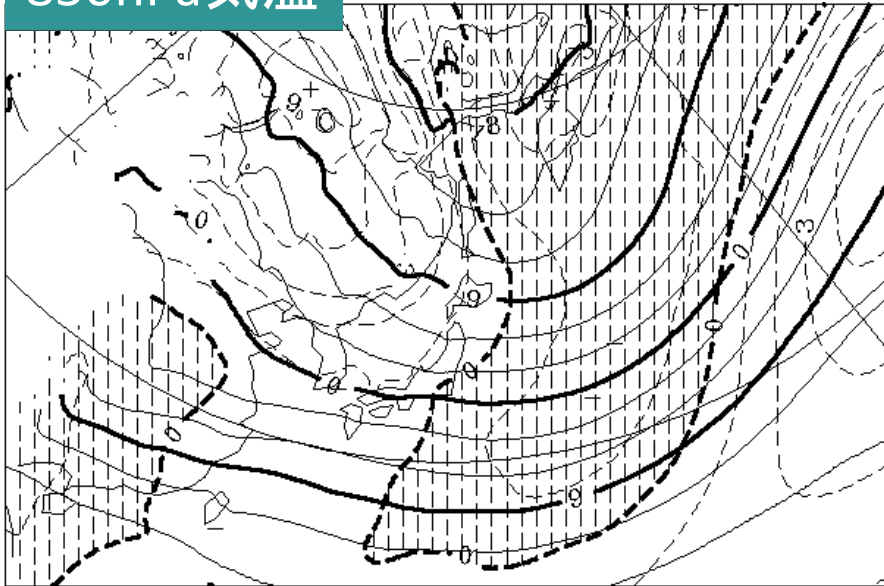
北日本を中心に正偏差に覆われる。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

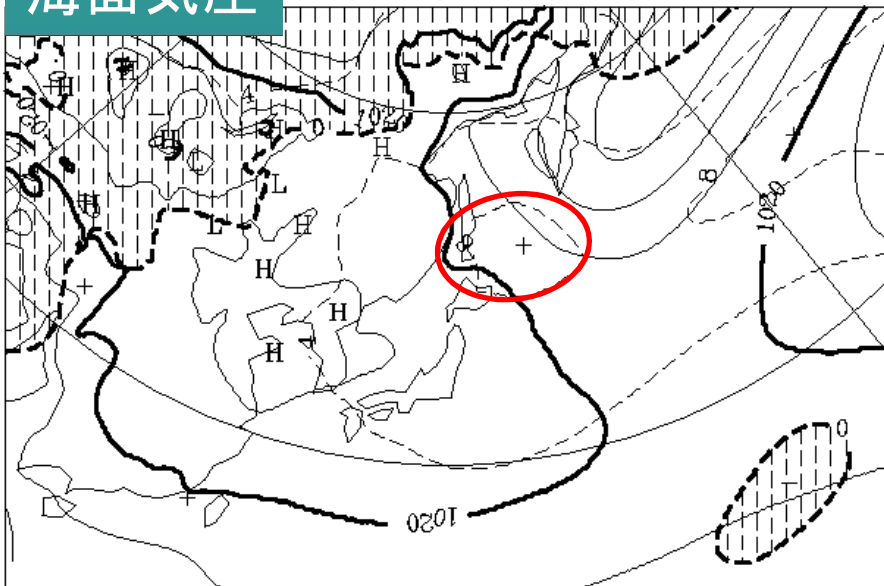


## 850hPa気温



日本付近は平年との隔たりが小さい。

## 海面気圧



北日本日本海側を中心に高気圧に覆われやすい一方、東・西日本太平洋側は高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響をやや受けやすい。

### 想定される天候

- ・北日本日本海側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。
- ・北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。
- ・東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

#### <気温>

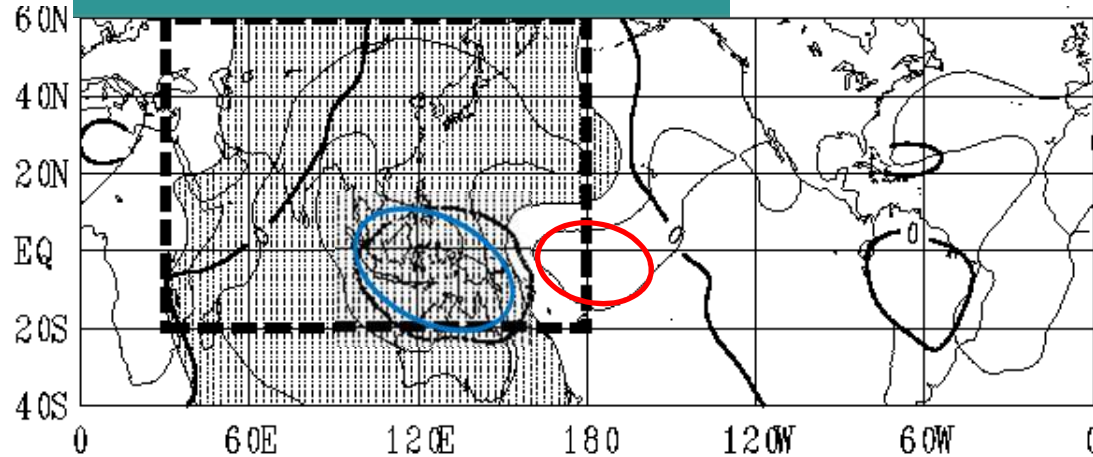
- ・全国で並温。

#### <天候>

- ・北日本太平洋側では、高気圧にやや覆われやすい。
- ・東・西日本太平洋側では、湿った空気の影響をやや受けやすい。
- ・沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響をやや受けにくい。

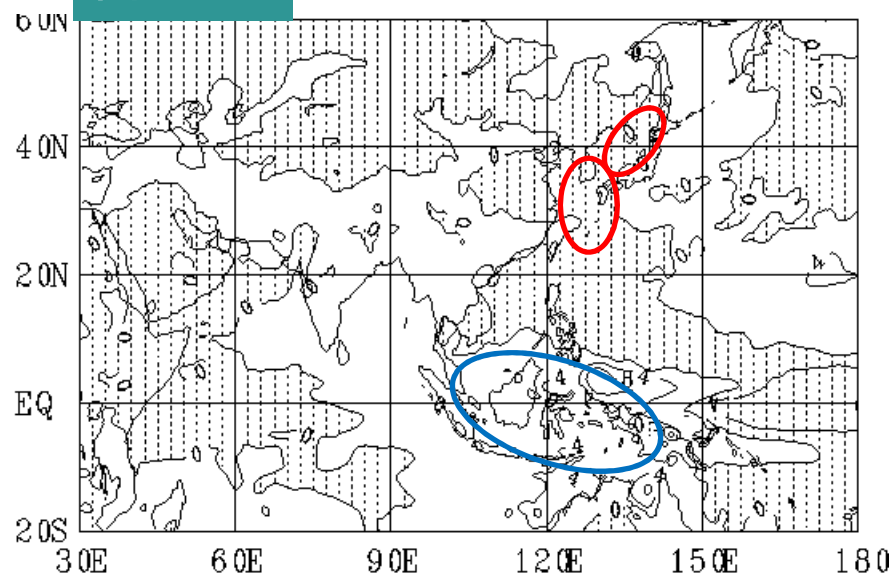


## 200hPa速度ポテンシャル



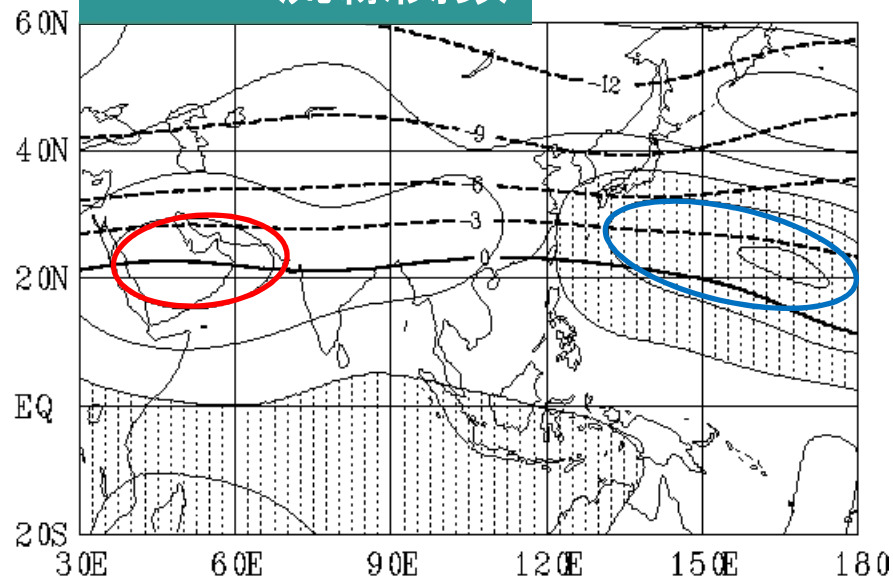
インドネシアからフィリピン付近にかけてを中心に上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

## 降水量



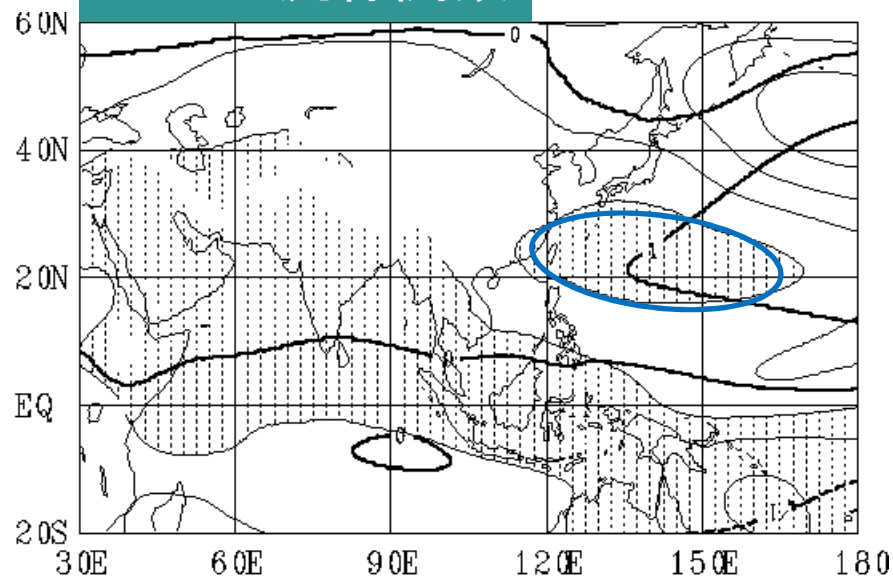
インドネシア付近を中心に多雨偏差。日本付近は北・東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美で少雨偏差。

## 200hPa流線関数



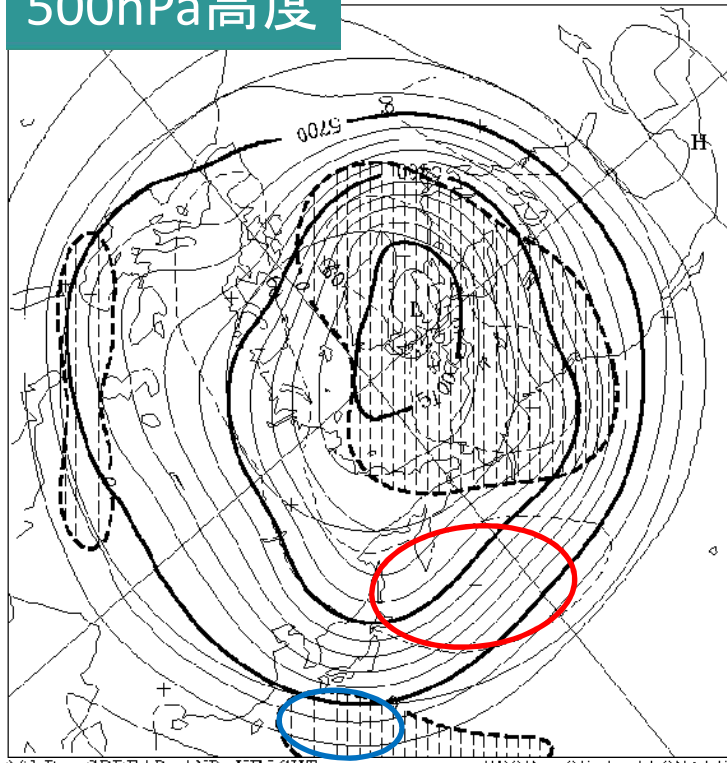
アラビア半島付近を中心に高気圧性循環偏差、日本の南東で低気圧性循環偏差。沖縄・奄美は寒気が流れ込む時期もあると見込む。

## 850hPa流線関数



日本の南で低気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

## 500hPa高度



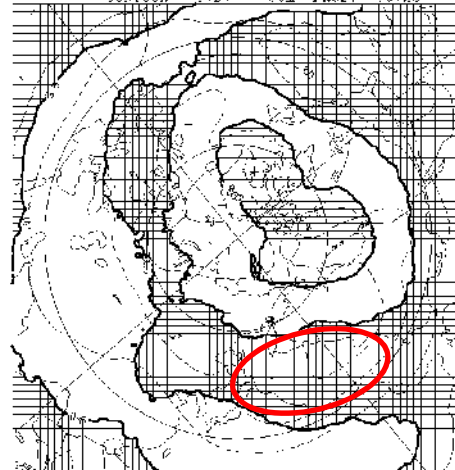
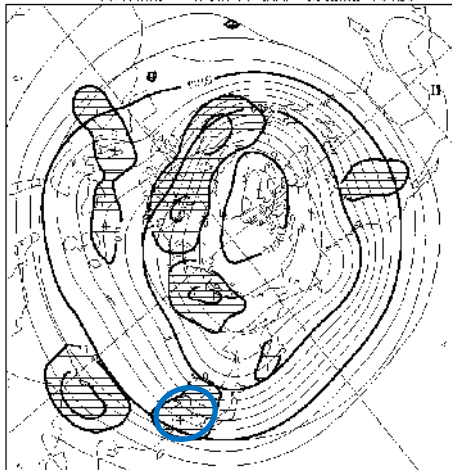
千島の東を中心に正偏差で、北日本は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。ただし、日本付近のスプレッドがやや大きく、寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播の不確実性は大きい。日本の南は負偏差。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

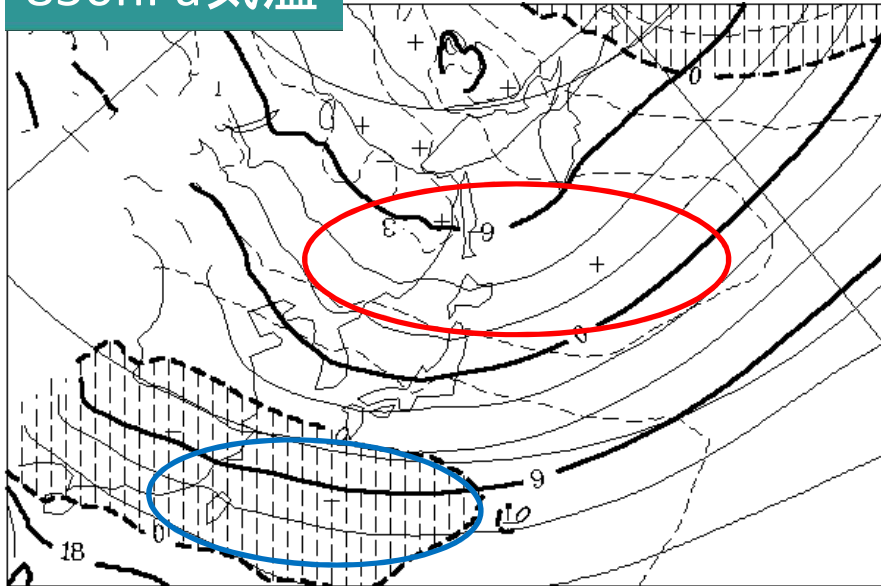
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

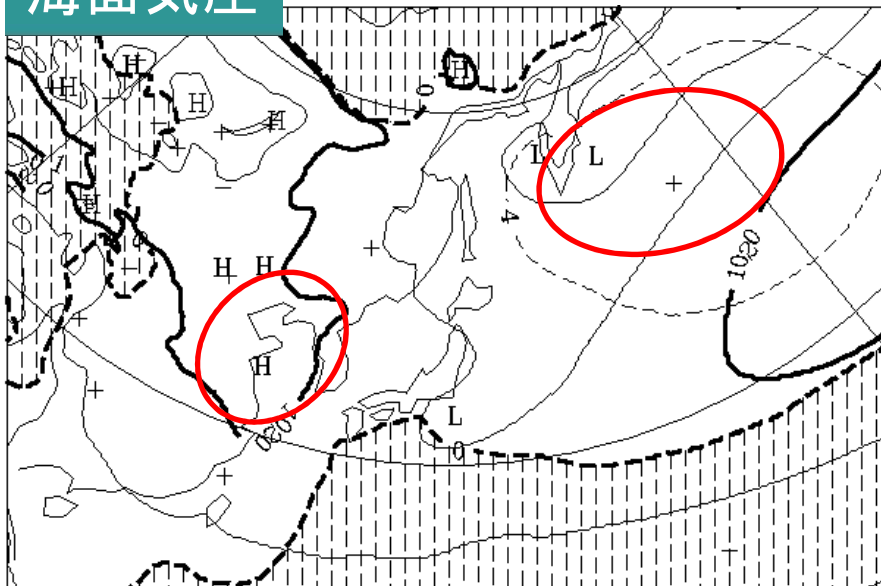


## 850hPa気温



中国東北区から日本のはるか東にかけてを中心に正偏差。一方、華中から日本の南にかけて負偏差。

## 海面気圧



アリューシャン低気圧が弱く、西高東低の気圧配置が長続きしない。西日本と沖縄・奄美は大陸の高気圧に覆われやすく、低気圧の影響を受けにくい。

## 想定される天候

- ・北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

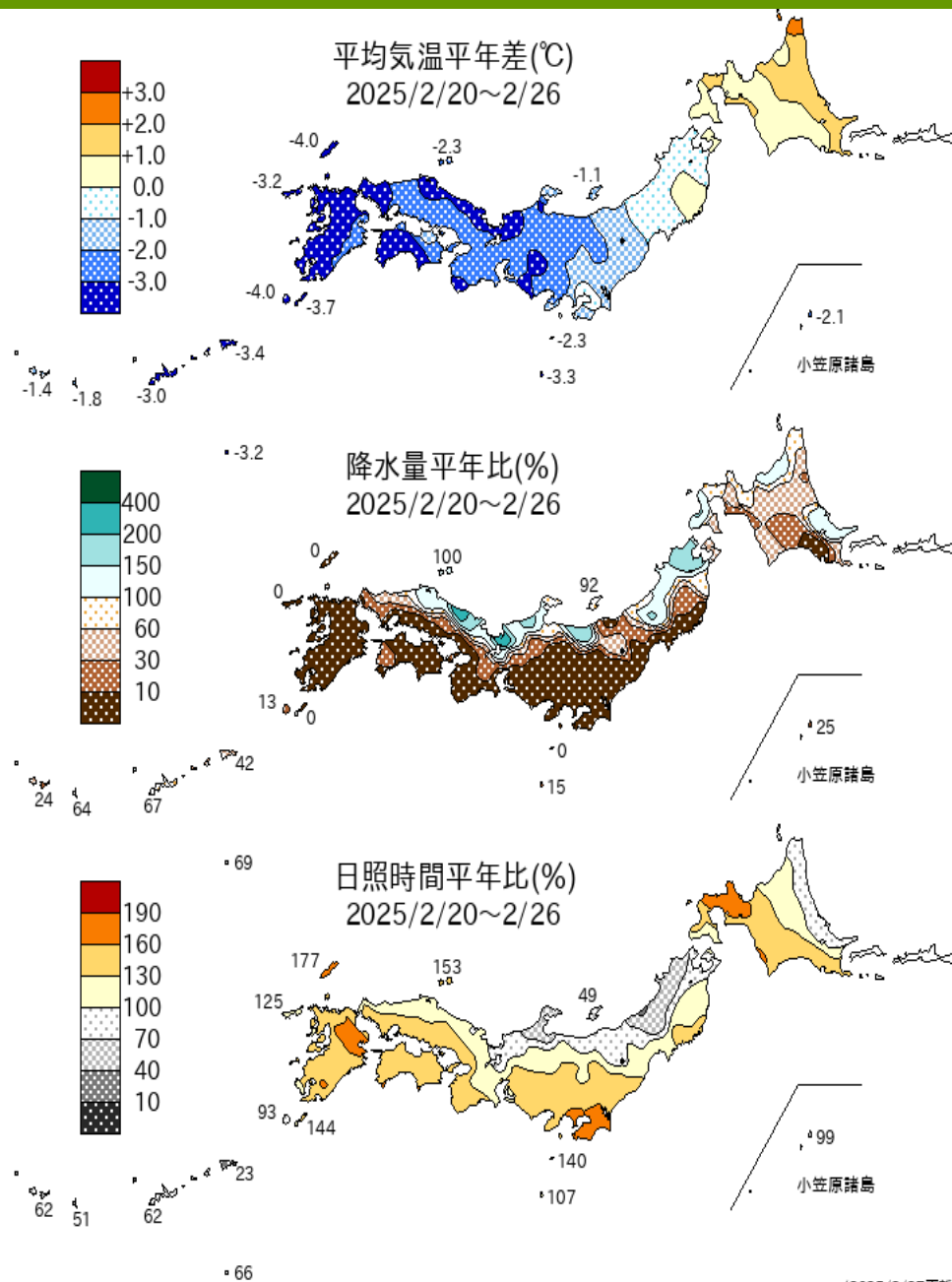
### <気温>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、北日本で高温、東日本で高温傾向。沖縄・奄美は寒気が流れ込む時期があるため低温傾向。西日本は並温。

### <天候>

- ・北・東日本日本海側では、西高東低の気圧配置が長続きしない。

# 最近1週間の天候経過



最近1週間(2月20日~2月26日)は、期間の中頃まで冬型の気圧配置が強く、北陸地方では顕著な大雪となったところもありました。降水量は日本海側で平年を上回った所が多く、太平洋側と沖縄・奄美で平年を下回りました。日照時間は東日本日本海側と沖縄・奄美で平年を下回り、太平洋側で平年を上回りました。

気温は西日本を中心に強い寒気の影響を受け、本州以南ではおおむね平年を下回りました。北海道では期間の終わりに暖かい空気が流れ込んだため、平年を上回りました。